

全国でわずか50人

専門学校在学中は初

山口さんは長崎県出身。小学生でサッカーを始めたが、中学になると女子がプレーできるチームがなく陸上部に入部。それでも情熱は冷めず、高校でサッカー部マネジャーを務め、JSCに進学した。授業の一環で、審判員の北信越地区研修会に参加した際、卒業生の女子1級取得者らと触れ合い、「先輩方がかっこよく見えた」と上級審判を目指すことを決意。女子1級は体力テストから始まり、約1年間かけて中学の全国大会での実践や筆記など3次試験までたどりついた。最初に取得で

聖籠町の専門学校「JAPANサッカーカレッジ」(JSC)3年の山口鈴佳さん(21)が、

女子サッカー

# 山口さん(JSC)1級審判員取得

全国で約50人しかいないサッカーの「女子1級審判員」の資格を取得した。同資格を専門学校在学中に取得するのは全国初で、「女子サッカー界を盛り上げていきたい」と張り切っている。

「世界で活躍したい」



女子1級審判員資格を取得し、「自信を持ってやっていきたい」と話す山口鈴佳さん＝聖籠町

きる4級からわずか2年半で合格し、「こんなにとんとんと来るとは思わなかった」と笑顔を見せる。審判の魅力は「試合中でも課題をすぐに改善して自分のものにできること」と語る。陸上部で中距離専門だっただけに、持久力に自信はある。一方で試合をスムーズに進めるには選手やベンチ、副審とのコミュニケーションが大事になると主張しすぎても優し

すぎてため。どう接するかが難しい」と言い、やりがいの一つにもなっている。審判として活躍する傍ら、普及にも力を入れる。町の小学生チーム「FC聖籠」で指導し、「成長を見られるのがすごく面白い。子どもたちのことを学びたい」と現在は小学校の教員免許取得も目指している。今後はなでしこリーグなどで主審を務める予定。将来的には国際大会での活動も視野に入れる21歳は「日本全国、世界で活躍したい」と意気込んでいる。